

DAIDO UNIVERSITY NEWS

DAIDO

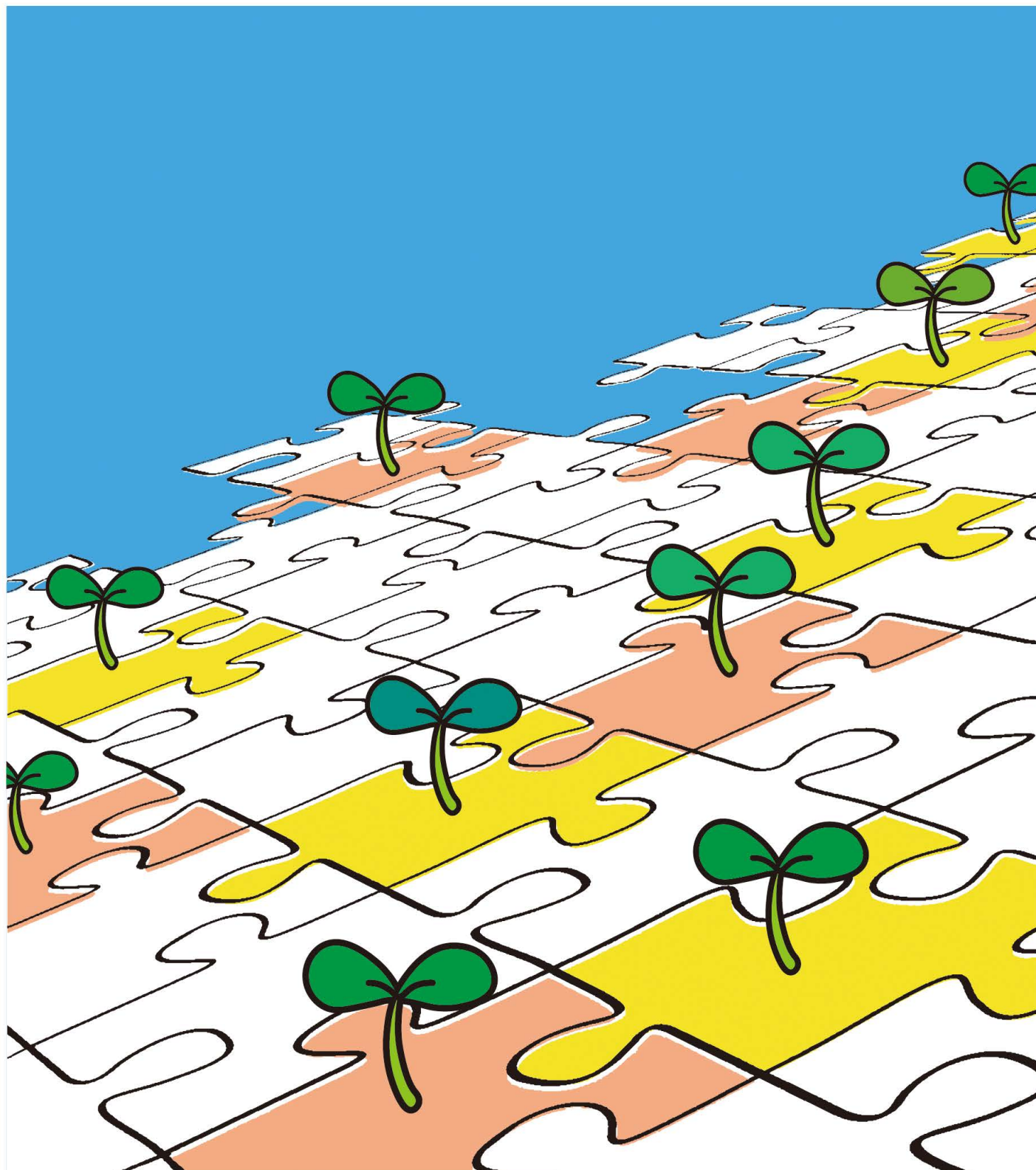
CAMPUS

ISSUE
106

2022年
12月発行

特集

卒業生インタビュー ほか



就活クエスト展示

START

SHUKATSU QUEST

10月18日(火)~28日(金)に本学8棟1階の展示室にて、情報学部 情報デザイン学科 桐山岳寛講師と同学科3年 秋田詩織さん、川口莉生さん、齋藤ひかりさん、長谷川太一さん、保田充輝さん、森川翔一さん、横井綾汰さんの7人が学生の就職活動を支援するイベント「就活クエスト」を開催しました。▶

本展示会の企画、キャリアセンターへの取材から会場設営などすべて自分達の手で行い、開催期間中に200人の来場者を動員しました。学生7人に本展示会の目的や苦労したことなどをインタビューしました。▶

司会: 今回の展示会の内容について教えてくださいませんか？

横井: 今回の展示会では、「就職活動を早めに開始するように促す」というのが目的でした。そのために、就職活動をまだ始めている僕たちメンバーで、就職活動をする為の準備の流れについて紹介しよう、ということになりました。

司会: 先生から今回の依頼があり、最初の打合せはどんな感じでしたか？

横井: 最初の顔合わせの時、なかなかリーダーとか役割も決まらなくて(笑)誰もいないなら僕が〜って言った、本当にリーダーになってしまいました(笑)

秋田: お互い、授業では顔合わせたことはあるけど、話したこともちょっとしかないし、誰が何が得意なのかもわからずに話し合いをしたので、探り探りでした。

全員: 確かに、最初の方は壁があって大変だったよね…(笑)

司会: 展示会の準備を進めるにあたって、どういった順番で作成していききましたか？

横井: まず、タイトルをどうするかという話し合いを長い間していて、中々決まらず…。展示内容のために川口さんとキャリアセンターの方にインタビューと一緒に、なんだかんだ3時間くらい話を聞かせてもらって。その内容を共有したら、就職活動をするための準備を4つに分けて紹介しよう、ということになりました。

川口: それがなんかレベルアップみたいだねってなって。ゲームみたいだね、じゃあテーマはゲームにしようってなりました。最後にタイトルが決まって「就活クエスト」になりました。

司会: それぞれの役割

分担、一番苦労したことについて教えてください。

横井: 大きく4つに分かれるのですが、手が空いた人から違う班のお手伝いやその他の制作などに入っていました。

保田: 齋藤さん、長谷川さん、僕はポスター、ロゴ、チラシ班でした。ロゴが本当に決まらなくて…。3回くらい会議しました。出合った案でみんなで意見を出し合っ、最終的には決めていきました。

秋田: 森川さん、私はキャラクターとグッズ班でした。基本的にキャラクターの原画は森川さんが提案してくれたので、私はその原画をドット画に作り変える作業をしていました。グッズは、就職活動で使えるようなもの、身だしなみを整えられるもので多数決で決めました。

横井: 川口さん、齋藤さん、長谷川さん、僕で展示空間、展示内容・文章班でした。展示内容のために5月から企画を考え、キャリアセンターの方にインタビューして、7月には内容が固まりました。苦労したことは、まだ自分たちも経験していない就職活動への準備について形にすることです。そこは、去年展示会をやっていた4年生の嶋田さん、松原さん、丸山さんが手伝ってくれたので、アドバイスをもらってどうにか形にできました。

川口: 動画と音楽は素材を秋田さんや保田さんに提供してもらい、メインで制作しました。一番苦労したことは、昔のゲームを模したコンセプトにしたものの、メンバーは誰も分からなくて(笑)親に音楽や動画を確認してもらっていました。自分たちの世代じゃないものを作るのは難しかったです。

司会: では、最後に今回の展示会を運営した感想をお願いします。

齋藤: 展示会を運営するって聞いて最初は何かやればいいのか?と漠然とした不安はありましたが、担当以外にも展示スペースの真ん中に置いた剣を制作しました。剣を制作するために、あまりかかわったことがなかった3D分野の先生とお話をしたり、完成した剣をもって展示会の宣伝をしに行ったりして、いい経験でした。

森川: 最初は知り合いが全然いないし、グループワークですめるっていうのが難しいこともあったけど、最終的にはみんなと仲良くなれて、クオリティーの高い大きな形になったものが出来てととてもうれしかったです。

長谷川: 今回の展示会で就活や展示会を運営する上で必要な技術を学ぶことができました。最初はほぼ初対面で会議できるのかな…っていう不安もあり、途中もいろいろありましたが、展示会の終了までの期間があっという間で楽しかったです。

川口: 私以外は全員桐山研究室に所属する学生で、私は原田研究室所属で、みんなとは違います。ですが、桐山先生を始め、暖かく迎えてくださって、尚且つ4年生の先輩との関わりが広がり、今では就職活動などの相談役になっていただいています。

横井: 全体のリーダー、展示内容のリーダーとして議事録を作成することの大変さ、インタビューをまとめる力…情報を収集して、整理して、わかりやすく他のメンバーに伝えるという力が身についたと思います。身についた力を活かして就職活動を頑張っていきたいと思っています。

北村海卯さん、直井和希さん(大学院 工学研究科 建築学専攻) 第27回『JIA東海学生卒業設計 コンクール2022』で 入賞・入選しました

5月28日(土)、公益社団法人日本建築家協会東海支部が主催する『JIA 東海学生卒業設計コンクール2022』の二次審査会が行われ、大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 米澤研究室 1年 北村海卯さんの「路地建築はつなぐー改修事例から読み解く再建築不可建築の可能性ー」が銅賞を受賞、同専攻 船橋研究室 1年 直井和希さんの「50年の乱反射」が入選を果たしました。

本コンクールは、「実社会で活躍する建築家と建築を学ぶ学生との交流の場を作り、広く建築家の仕事を理解する機会」とするとともに、「優れた後進の育成」をめざして毎年開催されており、今年で第27回を迎えました。

二次審査会では、学外でのプレゼンテーションや建築家との質疑応答などを通じ、更なる学びの機会を得ることができました。

銅賞を受賞した北村さんの卒業設計作品は、6月18日(土)に開催された『JIA全国学生卒業設計コンクール2022』へ選出されました。

JIA東海学生卒業設計コンクール2022 最終結果

<http://www.jia-tokai.org/info/1400>

JIA全国学生卒業設計コンクール2022

https://www.forum8.co.jp/forum8/image/JIA_Poster_2022.pdf



▲(上)北村さんの作品、(下)直井さんの作品



林秀行さん(大学院 工学研究科 材料・環境工学専攻)

減速機に関する特許を取得しました

3月30日(水)、大学院 工学研究科 博士課程 材料・環境工学専攻 1年 林秀行さんが発明した「サイクロ遊星歯車減速機」が特許登録されました。林さんはこれまでも、多数の減速機や歯車等の発明・開発を行っています。

関連記事はこちら

減速機に関する特許を出願しました

/大学院 修士課程 林秀行さん

https://www.daido-news.jp/du_news/student/1022.html

日本機械学会東海支部第70期講演会で研究発表を行いました

/大学院 修士課程 林秀行さん

https://www.daido-news.jp/daido_news/student/70-1.html

ロボティクス・メカトロニクス 講演会 2021 in Osakaで研究発表を行いました

/大学院 修士課程 林秀行さん

https://www.daido-news.jp/daido_news/student/-2021-in-osaka.html



▲特許を取得した林さん



▲特許を取得した減速機の模型

小林優馬さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

The 7th World Tribology Congress で研究発表を行いました

7月10日(日)~15日(金)でLyon Convention Centreで開催されたThe 7th World Tribology Congress (WTC 2022)で大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 杉谷研究室 2年 小林優馬さんがポスター発表を行いました。

●発表テーマ:Lubrication Properties of Ionic Liquid
with Polymer Particles Dispersing

小林優馬(大同大学大学院)、杉谷啓(大同大学)、岡部貴雄(東京大学)
また、同学会では杉谷准教授も以下の発表を行っています。

●発表テーマ:Lubrication Properties of Ionic Liquid with SUS304
Particle Dispersing by Plasma Sputtering Deposition

杉谷啓(大同大学)、宮本潤介(大同大学)、

小林優馬(大同大学大学院)、岡部貴雄(東京大学)

The 7th World Tribology Congress
についてはこちら

<https://www.wtc-2022.org>



山崎一也さん(電気電子工学科)

電気学会東海支部研究フォーラムで 研究発表を行いました

7月9日(土)、電気学会東海支部研究フォーラム「電力システムに対する雷・自然災害と環境問題に関する研究」が名古屋工業大学で開催されました。本フォーラムは東海地区の大学生の発表会であり、大同大学からは工学部 電気電子工学科 植田研究室 4年 山崎一也さんが研究



▲研究発表する山崎さん

成果を発表しました。発表題目は「Blitzortung落雷位置標定ネットワークによる雷撃電流値推定について」で、名工大、岐阜大、愛工大、中部大の学生らとともに発表を行いました。過去2年間はオンライン開催で、今回久しぶりの対面開催でしたが、山崎さんは臆することなく堂々とした発表で、今後の卒業研究のヒントとなる多くの質問コメントをいただきました。

寶木涉さん(大学院 情報学研究科 情報学専攻)、
高田晃希さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

公益財団法人 大幸財団の 学芸奨励生に採用されました

愛知県内の大学等に所属する学生・大学院生・研究者を対象とした助成事業を行う、公益財団法人 大幸財団では、優れた若手研究者の萌芽的・独創的な研究を助成し、将来有望な人材を育成するために学芸奨励生を募集しています。

本学では応募のあった学生から、大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 不破研究室 2年 寶木涉さん、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 前田研究室 2年 高田晃希さんが推薦され、このたび採用されました。

寶木さんは「学部4年生から継続してきた研究が認められてとてもうれしいです。より一層、研究に励んでいきたいと思えます。」と今後の意気込みを話していました。



▲学芸奨励生に採用された寶木さん



▲学芸奨励生に採用された高田さん

滝康佑さん、西原大貴さん、山田徹さん
(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

日本鑄造工学会第179回全国講演大会で研究発表を行い、西原大貴さんが学生優秀講演賞を受賞しました

5月21日(土)、22日(日)に(公社)日本鑄造工学会が主催する第179回全国講演大会が開催されました。今大会で、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 前田研究室 2年 滝康佑さん、西原大貴さん、1年 山田徹さんが研究発表を行いました。西原さんは「令和4年度 公益社団法人 日本鑄造工学会 学生優秀講演賞」を受賞しました。

発表した研究テーマは下記のとおりです。

◆滝康佑さんの研究テーマ

「重力鑄造における各種鑄造フィルタを通過するアルミニウム合金溶湯の直接観察」

◆西原大貴さんの研究テーマ

「コニカルモールドにおけるアルミニウム合金鑄物のひけ巣制御の試み」

◆山田徹さんの研究テーマ

「アルミニウム合金ダイカストにおけるラドル傾動速度が注湯時の挙動に与える影響」



▲(左から)山田さん、西原さん、滝さん



▲学生優秀講演賞を受賞した西原さん

日本鑄造工学会のHPはこちら

<https://jfs.or.jp/>



保田勇晴さん(情報デザイン学科)

愛知県製本工業組合発行『愛知製本界』176号の表紙にイラストレーションが採用されました!

愛知県製本工業組合発行の『愛知製本界』176号に情報学部 情報デザイン学科 4年 保田勇晴さんの作成したポスターのイラストレーションが採用されました。

このイラストレーションは、愛知県印刷工業組合主催、第12回ポスターグランプリ(2021年)にてグランプリを受賞したものです。



▶保田さんの作品

嶋田菜帆さん(情報デザイン学科)

吉田建設株式会社(愛知県津島市)のオリジナルグッズに学生が作成したキャラクターが採用されました!

2021年に本学との産学連携事業でデザインプロジェクトに参画した学生チームが、協働した吉田建設株式会社(愛知県津島市)に対して提案した企業キャラクター「よしにゃん」が、同社のオリジナルノベルティのパッケージに採用されました。



▲吉田建設のオリジナルグッズ

パッケージの中身はインスタントコーヒーで、主に建設プロジェクト開始時期に近隣住民の挨拶回りに使用する予定とのことです。

キャラクターデザインは情報学部 情報デザイン学科 4年 嶋田菜帆さんが担当しました。

伊藤良太さん、佐野大和さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

国際学会で発表を行いました

9月4日(日)~8日(木)、第18回アルミニウム合金国際学会(International Conference on Aluminum Alloys, ICAA18)が富山国際会議場で開催されました。大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 高田研究室 2年 伊藤良太さん、佐野大和さんが、口頭発表を行いました。この学会は2年に1回開催され、日本開催は今回で3回目となります。前はフランスのグルノーブルにてオンライン開催でしたが、今回は現地とオンラインのハイブリッド開催となり、聴衆の約3割が主にヨーロッパからの海外参加者でした。なお、今回は2024年にアメリカのジョージア州アトランタにて開催予定です。今後、伊藤さんの研究は北海道大学と名古屋大学との共同研究、佐野さんの研究は名古屋大学、AichiSR等が参加する、科学技術交流財団の研究会での研究へと展開されます。



▲(左から)佐野さん、伊藤さん

◆伊藤さんの研究

“Dislocation behavior during tensile deformation of pure aluminum by electrical resistivity measurements”

◆佐野さんの研究

“Investigation of tensile properties of isothermal-aged Al-Mg-Si alloys using electrical resistivity measurements”

竹川侑吾さん、宮川幸太郎さん(情報デザイン学科)

日本図学会中部支部奨励賞を受賞しました

8月23日(火)、富山県高岡市の青井記念館美術館で開催された、日本図学会中部支部夏季例会において、情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 横山弥生研究室 竹川侑吾さんと宮川幸太郎さんが学生の優秀な研究発表に贈られる奨励賞を受賞しました。

発表タイトルは、「考古遺物の3Dデータ化とその活用方法」で、内容は岐阜県各務原市の考古遺物7点を3Dデータ化し、市のHPに掲載すること、秋に開催したVRイベントへの展開などです。「研究の内容が非常に優れ、今後の発展が楽しみである」とのコメントもいただきました。



▲奨励賞を受賞した竹川さん(中央)と宮川さん(右) 左は横山教授

久保則文さん、西館光紀さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

学会にて研究発表を行いました

大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 高田研究室 1年 久保則文さん、西館光紀さんが第171回日本金属学会秋期講演大会にて口頭発表を行いました。本学会は3年ぶりの対面開催となり、多くの大学や企業の研究者・技術者が参加され、久保さんと西館さんが発表した「力学特性の基礎」のセッションへの発表者・聴講者も多数でした。



▲(左から)久保さん、西館さん

◆久保さん発表テーマ

「オーステナイト系ステンレス鋼における引張変形中の加工誘起マルテンサイト形成の調査」

◆西館さん発表テーマ

「引張変形下におけるAl-Mg合金中の応力・電気抵抗率振動の解析」

石橋春菜さん、伊藤嘉基さん、野田裕亮さん
(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

PSE2022国際会議にて 研究発表を行いました



9月12日(月)～15日(木)、ドイツのエアフルトで18th International Conference on Plasma Surface Engineering (PSE2022)が開催され、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 宮本研究室 2年 石橋春菜さん、伊藤嘉基さん、野田裕亮さん

および宮本潤示講師が口頭発表およびポスター発表を行いました。

ヨーロッパでの開催だったこともあり、参加者の大半がヨーロッパからの参加者でした。

研究発表テーマは下記の通りです。

- ◆石橋さん発表テーマ: Development of Rotary-Type Nitriding Using Electron Beam Excited Plasma
- ◆伊藤さん発表テーマ: Development of Magnetorheological Fluid by Using In-Liquid Plasma
- ◆野田さん発表テーマ: Surface Properties of Tool Steel Hybrid-Treated by Atmospheric-Pressure Plasma Nitriding and Steam Treatment
- ◆宮本講師発表テーマ: Effect of Hydrogen on Atmospheric-Pressure Plasma Nitriding of AISI H13 Tool Steel Using Dielectric Barrier Discharge

神谷隆太さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

第14回生産加工・工作機械部門 講演会で研究論文を発表しました

10月7日(金)、8日(土)に一般社団法人日本機械学会 生産加工・工作機械部門が主催する「生産と加工に関する学術講演会」、第14回生産加工・工作機械部門講演会が開催されました。

その講演会で大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 萩野研究室 神谷隆太さんが「切削条件が加工後の材料変形に与える影響(材料変形と残留応力の関係)」という題目で研究発表を行いました。



▲研究論文を発表した神谷さん

杉山仁滉さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

計測自動制御学会中部支部 第172回教育工学研究会において 学生優秀発表賞を受賞しました

9月15日(木)に開催された、計測自動制御学会中部支部 第172回教育工学研究会において大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 2年 杉山仁滉さんが学生優秀発表賞を受賞しました。

この研究会には計測自動制御関係の教育に関する取り組みの発表以外に、関係する研究室の学生の研究発表が行われており、そのなかで優秀な発表であると認められました。杉山さんの研究は3足歩行ロボットの製作とロボットの関節角度の最適な軌道計画に関するものであり、機体の設計についての詳細な説明と、数式モデルの作成、動作中に重心位置が大きく基準位置から逸脱しないような最適な歩行計画について発表しました。



▲学生優秀発表賞を受賞した杉山さん

杉山さんは学部生時代にロボット研究部に所属しており、そこでの経験から遊星歯車機構を用いた本体部分の姿勢変形機構を設計しました。この機構も非常に注目を浴びたのだと思われます。

滝康佑さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻)

日本鑄造工学会 第180回全国講演大会で 研究発表を行いました

9月29日(木)、30日(金)に公益社団法人日本鑄造工学会が主催する第180回全国講演大会が開催されました。

今大会で、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 前田研究室 2年 滝康佑さんが研究発表を行いました。

発表した研究テーマは下記の通りです。

◆滝康佑さんの研究テーマ

「鑄造用フィルタを湯口に設置したときのアルミニウム合金溶湯の流動挙動」

日本鑄造工学会のHPはこちら

<https://jfs.or.jp/>



▲研究発表を行った滝さん



赤座健斗さん、福田正雄さん、森蓮さん、高間祈音さん(情報デザイン学科)

第13回ポスターグランプリで入賞・入選しました

中部地区印刷協議会を構成する愛知・岐阜・三重・石川・富山の5県印刷工業組合と愛知県印刷共同組合が主催する「第13回ポスターグランプリ」で情報学部 情報デザイン学科 3年 赤座健斗さん、福田正雄さん、森蓮さんが入賞、高間祈音さんが入選しました。今回のテーマは「カタチ」。応募規定であるB1サイズ(728×1030mm)のポスター制作に前期～夏休み期間を使って取り組み、それぞれの自由な発想から「カタチ」を表現しました。



▲赤座さんの作品



▲福田さんの作品



▲森さんの作品



▲高間さんの作品

情報デザイン学科

2022年大学プロモーションビデオを掲載しました!

2022年大学プロモーションビデオが完成しました!

大学プロモーションビデオは、2015年より情報学部 情報デザイン学科 杉本研究室にて製作されており、今年度は新校舎X棟を舞台に、新入生の主人公が本学で目標を見つけて、成長していく姿を表現しております。本ビデオは企画、撮影、編集等全て学生の手によって製作されております。ぜひご覧ください!

下記URLから2022年版を含む、
歴代プロモーションビデオが視聴できます。
<https://www.daido-it.ac.jp/gallery/>



情報デザイン学科

学生が提案した「木の玩具」が製品化候補に! ぎふ木遊館の企画展で展示されました!

岐阜市の木育施設「ぎふ木遊館」で、美濃市の木育事業を紹介するギャラリー企画展「美濃市産材をつかったおもちゃ開発 みの木工工房 FUKUBEX×大同大学」が6月21日(火)~7月10日(日)に開催されました。この企画展で、情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻の学生が提案した「木の玩具」が展示され、製品化に向けて進行中です。

昨年度、情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻は3年次の授業「製品デザイン実習B」で、岐阜県美濃市に拠点を置くグリーンウッドワーク協会との産学連携授業に取り組みました。

テーマは、『小学生が動かして遊べる地域材で作った木製玩具の開発』。審査の結果、9作品の提案の中から3作品が製品化候補として選ばれました。

製品化候補の3作品は以下の通りです。

- 岡孝樹さんの作品: 持ち運べる木琴「Hexaphone (ヘキサフォン)」
- 小林真平さんの作品: 樹種によって音が変わるドミノ「HAPINO (ハピノ)」
- 並木明菜さんの作品: 木の育ちをテーマにしたボードゲーム「木生すごろく」

今回展示された作品は、提案作品に木育の指導員や植物生態学の先生からアドバイスをもらい改良を加えた試作品です。会期中には提案した学生自身が玩具の使い方を来館者に説明し、実際に来館者に試作品で遊んでもらいました。そして今後の改良に向けたモニター調査も実施し、製品化へのブラッシュアップを図ります。

ぎふ木遊館についてはこちら
<https://mokyukan.pref.gifu.lg.jp/>
〒502-8503 岐阜県岐阜市学園町2-33



▲ぎふ木遊館の様子 左上:ギャラリー / 左下:内観 / 右上:内観 / 右下:外観

総合情報学科 スポーツ情報コース

小学生向けスポーツイベント「レッツジュニア」を開催しました

7月27日(水)9:00~12:00、大同大学石井記念体育館で、小学生向けスポーツイベント「レッツジュニア」が実施されました。このイベントは、大同大学と南区役所との包括連携協定に基づく事業として実施される



▲レッツジュニアの様子

もので、情報学部 総合情報学科 スポーツ情報コースの学生が企画・運営を行いました。参加した小学生は、大学生のお兄さん・お姉さんと一緒に、ハンドボール・バレーボール・ポッチャを楽しみました。



▲ハンドボールの様子



▲バレーボールの様子



▲ポッチャの様子

横山弥生研究室(情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

リアルに3Dデジタル化した考古遺物をVRで観る体験イベントを開催しました

情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 横山弥生研究室では、岐阜県各務原市教育委員会の後援を得て、各務原市中央図書館内歴史民族資料館に所蔵されている考古遺物7点の3Dデジタルデータ化を試み、リアルに完成させました。

さらに、10月8日(土)~10日(月・祝)には、7点の3DデジタルデータをVRで体験しながら見るイベントを開催しました。実際にVRゴーグルを装着して、バーチャルな洞窟の中に潜んでいる考古遺物を探し、見つけた考古遺物の表や裏、拡大して細部までも手に取るように見ることができた迫力のイベントです。VRの体験は研究室の竹川侑吾さんと宮川幸太郎さんが手伝いながら行いました。

このイベントの見どころは、「三角縁波文帯四神二獣鏡」ですが、デジタルによる鑑賞(資料館に足を運ばなくても見られる考古遺物への興味)とデジタルによる体験(資料館に足を運ぶことで体験できる考古遺物への興味)の両面から市内の考古遺物をPRすることです。



▲VRで観る各務原市の考古遺物チラシ



▲考古遺物

各務原市の案内はこちら

<https://www.city.kakamigahara.lg.jp/kankobunka/1010039/rekishi/1016194/index.html>



かおりデザイン専攻

第35回におい・かおり環境学会が 開催されました

8月30日(火)、31日(水)に本学で公益社団法人におい・かおり環境協会が主催する『第35回におい・かおり環境学会』が開催されました。におい・かおり環境学会は、においに関する国内外の研究者、企業の方などが参加され、様々なにおいに関する研究や事例等を発表する場として開催されています。学会初日には、本学の神保睦子学長が挨拶を行いました。

学会では、一般口頭発表とポスター発表、機器企画展示が行われました。工学部 建築学科 かおりデザイン専攻の学生が受付や機器企画展示のブースで説明を行いました。

また今回の学会では、1日目に、大学院 工学研究科 修士課程 都市環境デザイン専攻 1年 北川舞さんが、2日目には、大学院 工学研究科 博士後期課程 都市・環境工学専攻 2022年度修了生 近藤早紀さんが発表を行いました。



▲神保睦子学長挨拶の様子



▲近藤さん発表の様子

小島研究室(情報デザイン学科)

3年ぶりに映画監督に 直接インタビューしました

情報学部 情報デザイン学科 小島研究室では、毎年夏休みを利用してゼミ学生たちが映画業界の第一線で活躍する著名な映画監督へのインタビュー取材を行っています。監督の作品制作におけるルーツや信条などに迫る小島一宏教授のインタビュー研究の一環であると同時に、学生たちが一流の監督から直に刺激を受けられる貴重な機会として取り組んでいます。これまで歴代のゼミ生たちと、山崎貴監督、堤幸彦監督、本広克行監督らにマイクを向けてきました。

コロナ禍で、残念ながら2年続けて遠隔(Zoom)でのインタビューを余儀なくされましたが、今年度は3年ぶりに直接取材。映画『ジョゼと虎と魚たち』『ゼロの焦点』『のぼうの城』などの犬童一心監督にお話を伺うべく、マイクロバスで東京の監督の事務所へと向かいました。そして、毎回恒例となっている「人生で夢中になった3つのこと」について小島教授が質問し、続けてゼミ生全員が事前に検討を重ねた「監督の各作品に関する質問」や「監督ご自身についての質問」を、順番に聞いていきました。犬童監督は、映画における“空間”の使い方や撮り方など、とても興味深いお話をユーモアも交えて気さくにお話しいただき、他では聞けない貴重なインタビューを行うことが出来ました。もちろん、学生たちにとって忘れ得ぬ経験となりました。2時間ほどのロングインタビューは、動画カメラ2台と録音機材で収録しました。今後、文字起こしや映像編集などを行い、研究成果としてまとめる予定となっています。



▲インタビューの様子



▲犬童監督との記念写真

浦井一教授(電気電子工学科)

電気学会開閉保護技術委員会の 委員長に就任しました

工学部 電気電子工学科 浦井一教授が、電気学会電力・エネルギー部門の開閉保護技術委員会の委員長に就任しました。開閉保護技術委員会は、遮断器、断路器、負荷開閉器、避雷器、ヒューズ、閉鎖形開閉装置、ガス絶縁開閉装置に関する研究調査活動を行っています。

開閉保護技術委員会のHPはこちら

<https://bsp.ieejpes.org/>



植田俊明教授(電気電子工学科)

電気設備学会より中部支部賞を 受賞しました

5月26日(木)、名古屋ガーデンホテルで電気設備学会中部支部総会が開催され、工学部 電気電子工学科 植田俊明教授が中部支部賞を受賞しました。

中部支部賞は学会活動若しくは研究開発に著しく貢献、功労のあった方に贈られる賞です。

長年にわたる雷現象の解析や風力発電設備の耐雷対策に関する研究、中部支部の自主研究に委員としての参画、電気設備学会全国大会の座長など、支部活動における多大な貢献が評価され、今回の受賞に至りました。



▲受賞した植田教授

鷺見哲也教授(建築学科 土木・環境専攻)

テレビ愛知「5時スタ」に出演しました

6月8日(水)17時～放送された、テレビ愛知「5時スタ」に工学部 建築学科 土木・環境専攻 鷺見哲也教授が出演しました。

鷺見教授は、豊田市矢作川の明治用水頭首工の漏水事故、「取水口付近に矢板200枚」のニュースについて、矢板の設置の妥当性、漏水場所の復旧作業、梅雨に入って洪水が起こるときの問題などについて解説しました。農業などに大きな影響が広がったこの問題ですが、洪水の時期が迫り、復旧作業を急がなければいけない理由を解説しています。

この映像は、テレビ愛知NEWSの

YouTubeチャンネルでも視聴できます。

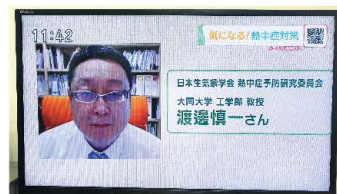
<https://www.youtube.com/watch?v=2a8CmuZQ4Jl>



渡邊慎一教授(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

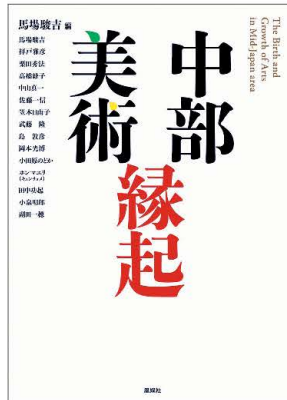
NHK「まるっと!」「さらさらサラダ」に 出演しました

6月30日(木)18時10分～放送されたNHK「まるっと!」、7月15日(金)11時30分～放送されたNHK「さらさらサラダ」に工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻 渡邊慎一教授が出演し、熱中症対策について説明しました。



武藤隆教授(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

書籍「中部美術縁起」に記事が再録・出版されました



風媒社から出版された書籍「中部美術縁起」に、工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻 武藤隆教授の記事が再録・出版されました。

本書は、現代アートの最前線に立つアーティスト、評論家、建築家、画廊主らを執筆陣に揃え、約2年間にわたって中日新聞紙上で連載された「中部美術縁起」を単行本化したものです。

この連載は、アートを生み出し、育んだ、創造性の源はなにか、中部

美術シーンをめぐる様々な人、出来事、そして事件からひもとく、「あいちトリエンナーレ2019」とは何だったのかについて述べています。

武藤教授は、「あいちトリエンナーレ2019」の章で、「木を見て森を觀ず一全体像を心でイメージ・「現在」に気づかされる」と題したコラムを執筆しました。

書籍の詳細はこちら

http://www.fubaisha.com/search.cgi?mode=close_up&isbn=4596-1

関連記事はこちら

9/20(金)、9/27(金)中日新聞の「中部美術縁起」に執筆記事が掲載されました/武藤隆教授

https://www.daido-news.jp/du_news/teacher/508.html



田中宏昌教授(教養部)

研究論文が国際学術誌の論文賞を受賞し、表紙に選ばれました

教養部 化学教室 田中宏昌教授の研究論文が、日本化学会の論文誌“Bulletin of the Chemical Society of Japan”の論文賞(BCSJ Award Article)と掲載号の表紙に選ばれました。

内容は空気中の窒素をアンモニアやヒドラジンに変換できる鉄触媒を新たに開発したもので、アンモニアは肥料の原料として、ヒドラジンはロケット燃料に使われています。

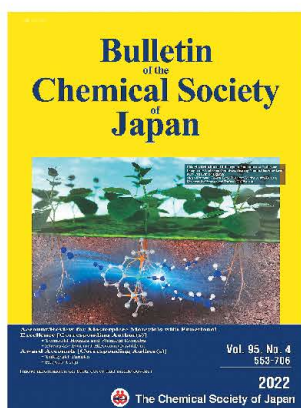
東京大学の西林仁昭教授、九州大学の吉澤一成教授らとの共同研究の成果であり、田中教授はコンピュータシミュレーションによる反応機構解析を担当しました。

論文のタイトルと著者などの情報は以下の通りです。

“Catalytic reduction of dinitrogen to ammonia and hydrazine using iron-dinitrogen complexes bearing anionic benzene-based PCP-type pincer ligand”

Shogo Kuriyama, Takeru Kato, Hiromasa Tanaka, Asuka Konomi, Kazunari Yoshizawa and Yoshiaki Nishibayashi
Bull. Chem. Soc. Jpn., 95, 683-692 (2022).

DOI: 10.1246/bcsj.20220048



酒井陽一名誉教授、高山努教授(教養部)

『Nature』誌に研究論文が掲載されました

酒井陽一名誉教授、教養部 化学教室 高山努教授の研究論文が、総合学術誌の『Nature』誌(電子版)に掲載されました。これは、京都大学の木村靖弘教授らのグループとの共同研究の成果で、自然界の触媒(酵素)を模倣する金属-硫黄クラスター錯体を合成し、窒素分子(N₂)の還元反応を実現しました。

大気の主成分であるN₂の化学変換は、アミノ酸やDNAに含まれる窒素原子を供給するために必要な一方で、非常に難しい反応として知られています。自然界では、一部の微生物に存在する酵素ニトロゲナーゼだけがこの役割を担い、Fe-Mo-S-Cから構成される酵素活性中心(FeMoco)を用いてN₂を還元します。FeMocoの触媒機能は、持続可能社会に向けた新しいN₂還元法を開発する重要なヒントになりますが、複雑なFeMocoは構造と機能の関係を理解するのが難しく、またタンパク質から取り出すと触媒機能を失います。FeMocoに関連する従来の金属-硫黄化合物もN₂を還元できなかったことから、N₂還元作用の鍵となる要素は未解明のままです。本研究では、N₂が結合したFeMocoの予想構造およびタンパク質の一部機能を模した[Mo₃S₄Fe]錯体を合成し、これを触媒としてN₂の還元反応を達成しました。この結果は、金属-硫黄化合物の可能性を切り拓くと同時に、自然界に学び、超えるための大きな第一歩といえます。

この研究において、酒井名誉教授、高山教授はメスバウアースペクトルによる錯体の電子状態の分析を担当しました。

論文のタイトルと著者などの情報

Ohki, Y.; Munakata, K.; Matsuoka, Y.; Hara, R.; Kachi, M.; Uchida, K.; Tada, M.; Cramer, R. E.; Sameera, W. M. C.; Takayama, T.; Sakai, Y.; Kuriyama, S.; Nishibayashi, Y.; Tanifuji, K., Nitrogen Reduction by the Fe Sites of Synthetic [Mo₃S₄Fe] Cubes, Nature, 607, 86-90, DOI: 10.1038/s41586-022-04848-1 (2022).

Nature誌のWebサイトはこちら

<https://www.nature.com/articles/s41586-022-04848-1>

<https://rdcu.be/cQ644>

(全文閲覧可能、ただし印刷・ダウンロード不可)



山田靖教授(電気電子工学科)

技術情報協会のセミナーで講師を務めました

7月12日(火)、技術情報協会の技術セミナー「銅ナノ粒子の界面設計と高耐熱接合技術」にて工学部 電気電子工学科 山田靖教授が講師を務めました。

山田教授が担当したのは、「Cuナノ粒子を用いた高耐熱接合技術と特性評価」で、EV/HV技術や次世代パワー半導体の説明に引き続き、接合技術に求められる要件、概況について解説しました。そして、Cuナノ粒子接合技術について、これまでの研究結果を説明しました。さらに、接合技術の特性評価法についても最近の研究結果を含めて述べました。

なお今回は、Zoomを用いたWebセミナーで開催されました。



舟橋慶祐准教授(情報デザイン学科)

機関誌「DESIGN PROTECT」 のコラムを執筆しました

DESIGN PROTECT
No.134
2022

情報学部 情報デザイン学科 舟橋慶祐准教授が「DESIGN PROTECT No. 134」のコラムを執筆しました。

「DESIGN PROTECT」誌は、一般社団法人日本デザイン保護協会(現:一般財団法人日本特許情報機構)が発行する、各企業における製品開発事例や知的財産保護などをまとめた機関誌です。

舟橋准教授の指導の下、デザイン・制作した学生作品が文部科学省や特許庁が共催する「デザイン・制作した学生作品が文部科学省や特許庁が共催する「デザイン・制作した学生作品が文部科学省や特許庁が共催する」において多数受賞した実績から依頼を受け、コンペの有用性や参加の意義、そして作品の指導方法について記述しました。

一般社団法人日本デザイン保護協会のHPはこちら

<http://www.jdpa.or.jp/index.html>



渡邊慎一教授(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

日傘の効果についての インタビュー記事が掲載されました

8月29日(月)、フジテレビ系列のニュースサイト「プライムオンライン」に工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻 渡邊慎一教授のインタビュー記事が掲載されました。

記事において、渡邊教授は日傘による熱中症の予防効果について説明しています。

ニュース記事はこちら

<https://www.fnn.jp/articles/-/408465>



岡康之准教授(教養部)

第3回大同大学若手微分方程式 セミナーを開催しました

8月22日(月)、23日(火)に、新型コロナウイルス感染症対策を施したうえで、ハイブリッド形式(大同大学X棟0205教室とZoomの併用)により、微分方程式に関係する研究者が集まって、第3回の若手微分方程式セミナーを開催しました。

本セミナーは、各分野における教育・研究の発展のためには、広い視野を持って研究に励むことは極めて重要であると考え、各研究機関の若手研究者や学生による異分野研究交流を目的としています。参加者は2日間でのべ32名(会場+オンライン)が参加し、分野を越えた熱い議論や質疑応答が繰り広げられ、大変有意義な会となりました。本学からは教養部 数学教室 岡康之准教授が世話人・座長を務めました。なお、第4回若手微分方程式セミナーは、2023年夏の開催を予定しています。

世話人:

岡 康之(大同大学 教養部 数学教室)

平山 浩之(宮崎大学 教育学部)

登口 大(早稲田高等学院)

若狭 恭平(釧路工業高等専門学校)

創造工学科 一般教育部門)

大同大学若手微分方程式セミナーのHPはこちら

<https://sites.google.com/view/daidowrks>



嶋田喜昭教授(建築学科 土木・環境専攻)

常滑市地域公共交通協議会の 座長に就任しました

常滑市の将来の公共交通のあり方を考える「常滑市地域公共交通協議会」が設置され、工学部 建築学科 土木・環境専攻 嶋田喜昭教授が副会長兼座長に就任しました。

6月24日(金)付の中日新聞朝刊では、常滑市役所で初会合が開かれたことが報じられています。

山田靖教授(電気電子工学科)

エレクトロニクス実装学会で ベストペーパー賞を受賞しました

9月5日(月)～7日(水)、大阪公立大学中百舌鳥キャンパスで開催されたエレクトロニクス実装学会第32回マイクロエレクトロニクスシンポジウム(MES2022)で、工学部 電気電子工学科 山田靖教授らが昨年のMES2021の発表に対するベストペーパー賞を受賞しました。

山田教授らが発表したのは、「パワー半導体実装用接合材料の基礎物性と信頼性評価法」で、自動車の電動化などに向け、SiC等の次世代パワー半導体を200℃以上で動作させるために必要な新しい接合材料の基礎物性や信頼性の特性評価方法です。

この研究は、横浜国立大学を中心とした産学公の、パワー半導体実装に関する研究プロジェクト(KAMOME-PJ)で実施されたものです。



▲表彰を受ける山田教授(右から2人目)

浦井一教授(電気電子工学科)

IEEE KANSAI YP 「博士課程のキャリアについて 語る会」で講演しました

10月9日(日)、IEEE KANSAI YP(*)が主催する「第4回 博士課程のキャリアについて語る会」で、工学部 電気電子工学科 浦井一教授が講演しました。

本イベントは、講演とグループディスカッションを通じて、学生をはじめとする博士後期課程に興味のある方々がキャリアについて考える会で、ハイブリッド方式(大阪工業大学 梅田キャンパスとZoom)で行われました。

(*) IEEE KANSAI YP:

国際的な電気・情報工学分野の学術団体の関西支部の

Young Professionals Affinity Group

IEEE KANSAI YPのHPはこちら

<https://www.ieee-jp.org/section/kansai/organization/YP/>



坪井涼准教授(機械工学科)

COMODIA 2022で研究発表を行いました

7月5日(火)~8日(金)、北海道大学で開催された国際会議「COMODIA 2022」において、工学部 機械工学科 坪井涼准教授が研究発表を行いました。COMODIA 2022とは、第10回先進エンジンシステムのモデリングと診断に関する国際会議で、「地球環境に対する最適パワートレインに向けた内燃機関の追求」を主題に掲げています。今回は、北海道大学での対面とオンラインでのハイブリッド開催となりました。坪井准教授は「Tribological properties of oval shaped convex texture for sliding surface of internal combustion engine」と題して発表を行いました。本研究は、自動車用内燃機関技術研究組合(AICE, The Research association of Automotive Internal Combustion Engines)を中心とした研究で、大同大学、名城大学、福井大学、東京都市大学による共同研究の発表です。

COMODIAのHPはこちら

<https://www.jsme.or.jp/conference/comodia2022/index.html>



坪井涼准教授(機械工学科)

日本流体力学会 年会2022で研究発表を行いました

9月27日(火)~29日(木)、京都大学で開催された日本流体力学会年会2022において、工学部 機械工学科 坪井涼准教授が研究発表を行いました。

坪井准教授は「SLD着氷のスプラッシュモデル構築に向けた低温水膜を有する平板への粗大液滴衝突試験(Experimental Study of Large Droplet Impingement on Flat Plate with Cooled Water Film toward a Splash Model Development for SLD Icing)」について研究発表しました。

本研究はJAXA所属の鈴木正也さん、水野拓哉さんとの共同研究です。

日本流体力学会 年会2022のHPはこちら

<https://www2.nagare.or.jp/nenkai2022/>



大東憲二教授(総合情報学科 経営情報コース)

SDGs AICHI EXPO 2022にて知多半島生態系ネットワーク協議会の取組発表を行いました

10月8日(土)、Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)で開催されたSDGs AICHI EXPO 2022の愛知県ブースにて、知多半島生態系ネットワーク協議会の会長を務める情報学部 総合情報学科 経営情報コース 大東憲二教授が、協議会としてこれまでに行った取り組みについて発表を行いました。

発表内容としては、知多半島生態系ネットワーク協議会に加盟する団体(38団体)と協力して行った知多半島企業緑地帯のモニタリング調査やピオトープの造成などについて、来場者に分かりやすいように説明を行いました。

SDGs AICHI EXPO 2022のHPはこちら

<https://sdgs-aichi.com/>



荻野正雄准教授(情報システム学科)

日本計算力学連合(JACM)総会でJACM Fellows Awardを受賞しました

9月17日(土)、東京理科大学神楽坂キャンパスで開催された、日本計算力学連合(JACM)総会で、情報学部 情報システム学科 荻野正雄准教授がJACM Fellows Awardを受賞しました。

荻野准教授のこれまでの計算力学分野における研究業績、JACMへのサポート、およびJACM関連国際学会に対する貢献が評価されて、今回の表彰に至りました。



大東憲二教授(総合情報学科 経営情報コース)

なごや環境大学共育講座「水の環(わ)でつむぐ、なごや」で講演しました

名古屋市南生涯学習センターが主催する、なごや環境大学共育講座「水の環(わ)でつむぐ、なごや」で情報学部 総合情報学科 経営情報コース 大東憲二教授が講演をしました。

大東教授は、第1回「自然界における水の環～水環境の実情から～」と第2回「名古屋における水の環～改善に向けた取り組み～」で講師を務め、対面形式で開催されました。

第1回では、地球規模の水循環は、陸・海・空を通して行われていることを知り、日本は水の大事さに対する気持ちが世界と比較すると低いことを、世界・日本・名古屋の水事情から説明しました。

第2回では、名古屋市が2007年に作成した「なごや水の環復活プラン」を説明され、このプランが2009年に「水の環復活2050名古屋戦略」となり、現在、第2期実行計画の途上にあることを説明しました。講師の大東教授は、名古屋市の「なごや水の環復活推進懇談会」の座長を務めており、2050年を目標年として名古屋市の水循環を改善していくためには、市民一人一人の意識を変えていくことが重要であると講演を行いました。



大東憲二教授(総合情報学科 経営情報コース)

地盤工学会中部支部 地盤工学セミナーで講演しました

7月27日(水)、8月23日(火)に開催された地盤工学会中部支部が主催する地盤工学セミナーで情報学部 総合情報学科 経営情報コース 大東憲二教授が講演しました。

このセミナーは、地盤工学の実務に従事されている技術者の中で、大学等の教育機関にて「土質力学」等の講義を今まで履修する機会がなかった方、あるいはもう一度復習をしたい方を対象としています。対面形式と遠隔会議システムZoom併用で開催とし、職場や自宅で履修できるようにされました。

大東教授は、第1回では、「地盤環境工学」が対象とする自然環境保全や土壌・地下水汚染対策等の基礎について説明し、第2回では、「地盤環境工学」を応用して、地盤環境への負の影響を回避・低減するように努力した事例を紹介すると同時に、現在の課題についても説明しました。

男女ハンドボール部

東海学生ハンドボール春季リーグ戦 男子が優勝!!女子は準優勝!

5月15日(日)、中部大学で東海学生ハンドボール春季リーグ戦の最終戦が行われ、本学の男子ハンドボール部が優勝、女子ハンドボール部が準優勝しました。

男子は、前節に全勝同士の中部大学と対戦し、接戦を制し見事勝利!最終戦を残して早々と優勝を決めました。リーグ戦での優勝は2018年春季以来の優勝です。女子は、前節に中京大学に惜しくも敗戦しましたが、最終戦を勝利し準優勝となりました。

リーグ戦はコロナ禍により2020、2021年度と春秋リーグが開催中止となったため、3年振りの通常開催となりました。練習が十分にできない時期を乗り越えての勝利は、選手個々の努力とチーム一丸となった組織力の賜物と言えます。

ハンドボール部は引き続き、8月10日(水)~14日(日)に開催された、西日本学生ハンドボール選手権大会(西日本インカレ)に出場しました。引き続き、男女ハンドボール部の応援をよろしくお願いいたします。

◆個人賞受賞者◆

〈男子〉

【最優秀選手】

4年 浜田 弘晟

【ベスト7】

4年 遠藤 岳

4年 森内 蓮

3年 村藤 空吾

〈女子〉

【ベスト7】

4年 佐々木 遥

3年 秋吉 七海



情報デザイン学科

大同大学奨励賞を受賞しました

情報学部 情報デザイン学科 4年 上条 太一さん、川田脩斗さん、遠山千聖さん、3年 勝航士さんが大同大学奨励賞を受賞しました。



▲授与式の様子

この4名は、「令和3年度デザインパレントコンテスト」で上条さんと勝さんは優秀賞、川田さんは選考委員長特別賞、遠山さんは日本弁理士協会会長賞に選出されたことにより今回の受賞に至りました。



▲上条さんの作品



▲遠山さんの作品



▲勝さんの作品



▲川田さんの作品

ハンドボール部

日本ハンドボールリーグに 卒業生が出演しています!

7月2日(土)から開幕した第47回日本ハンドボールリーグ(JHL)に、ハンドボール部の卒業生たちが選手として出演しています。現在、7名の卒業生がリーグでプレーしており、所属チームは以下の通りとなります。

【男子】

○大同特殊鋼フェニックス

原田 一沙さん (2016年度 総合情報学科 卒業)

佐藤 快さん (2018年度 総合情報学科 卒業)

○トヨタ紡織九州

三重 樹弥さん (2018年度 総合情報学科 卒業)

○アースフレンズBM

田代 健流さん (2021年度 総合情報学科 卒業)

【女子】

○HC名古屋

福地 成以良さん (2017年度 総合情報学科 卒業)

○三重バイオレットアイリス

山岡 莉那さん (2019年度 総合情報学科 卒業)

後藤 早耶さん (2021年度 総合情報学科 卒業)

卒業生の皆さんの情報は、ハンドボール専門誌「スポーツイベント ハンドボール」の8月号に掲載されています。日本最高峰のリーグでの活躍にご期待ください!

小田唯加さん、兼松光輝さん、木全彩弥花さん(2021年度卒業生 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

公益財団法人乃村文化財団2022年 表彰事業『学生卒業設計・制作 NCF空間ディスプレイアワード』で入賞しました!

7月5日(火)、公益財団法人乃村文化財団が主催する、2022年 表彰事業『学生卒業設計・制作 NCF空間ディスプレイアワード』の表彰授与式が行われました。この表彰では、最優秀賞が1件、優秀賞が4件、奨励賞が4件選定される中で、工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 中島貴光研究室 2021年度卒業生 小田唯加さんが優秀賞に、同学科 建築専攻 米澤隆研究室 2021年度卒業生 兼松光輝さんと同学科 インテリアデザイン専攻 武藤隆研究室 2021年度卒業生 木全彩弥花さんが奨励賞を受賞しました。全国の建築系・デザイン系大学から多数の応募があった中で、受賞者の1/3を大同生が占める快挙となりました。

乃村文化財団は、空間デザイン・ディスプレイデザイン・環境デザイン・建築デザイン・情報デザインなどディスプレイに関する領域全体を広く空間ディスプレイ分野と捉え、リアルからバーチャルへと未来に向かって進化する新たなディスプレイを見据えた優れた卒業設計・制作を評価し、その所属大学等の空間ディスプレイ分野における活動を顕彰することによって、空間ディス

プレイによる社会貢献の可能性を広げることを表彰事業の目的としています。NCF空間ディスプレイアワードは、日本全国に所在する大学の2021年度(2022年3月)卒業予定者の卒業設計・制作作品で、空間ディスプレイに関わるものがその対象で、ディスプレイが、人と人、人と物、人と情報をつなぎ豊かな価値を創造する空間を媒体としたコミュニケーション手段のひとつであることを、具体的な空間デザインにおいて具現化していることを評価・表彰されるものです。また、今回奨励賞を受賞した兼松さんと木全さんは現在本学の大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻に進学しています。



▲(左から) 兼松さん、小田さん、木全さん

受賞した卒業生の作品名は下記の通りです。

小田さん:「また来てくれんさいな 一高山陣屋前広場における「新しい朝市」」

兼松さん:「品種改良的模型生成 ー心理測定実験を基にアップデートするオブジェクト指向ー」

木全さん:「みのじ再織 ー一起におけるノコギリ屋根工場の新保存提案ー」

大橋隆之さん/男子ハンドボール部(2007年度卒業生)

ビーチハンドボールに取り組む姿が ハンドボール専門誌に掲載されました

日本唯一のハンドボール専門誌「スポーツイベント ハンドボール」の8月号に、本学男子ハンドボール部卒業生の大橋隆之さん(2007年度 卒業)が掲載されました。大橋さんは、「VOICE OF HANDBALL」のコーナーで、あくなきハンドボールへの情熱を持った選手として、日本リーグ引退後も、ビーチハンドボールやOBチームで活躍する姿が紹介されています。大橋さんは本学卒業後、日本リーグ 豊田合成ブルーファルコンに入団し、持ち前のハードワークやチームを鼓舞するプレーで活躍しました。現在は、ビーチハンドボール「BHC OWARI」の選手兼監督として、プレー・普及に尽力するほか、豊田合成ブルーファルコンのOBチーム「アブレイズ」の選手としても活動するなど、精力的に活動しています。

ハンドボールへの情熱を絶やさずに活躍する大橋選手、これからも頑張ってください!

大杉憲由さん/男子ハンドボール部
(2020年度卒業生 総合情報学科 経営情報専攻)

ハンドボール 第17回男子ジュニア アジア選手権 初優勝をアナリスト としてサポートしました

7月15日(金)~24日(日)、バーレーンで開催された、ハンドボール 第17回男子ジュニアアジア選手権において、U21日本代表が史上初となる優勝を成し遂げました。本大会において、男子ハンドボール部卒業生の情報学部 総合情報学科 経営情報専攻(現:経営情報コース)2020年度卒業生 大杉憲由さんがアナリストとして帯同し、チームの勝利に貢献しています。

男子日本代表は、予選リーグを2位で通過すると、決勝トーナメント決勝戦で、予選で引き分けたバーレーンと激突。24-20のスコアで勝利し、男子ジュニアとしては初のアジア選手権制覇となりました。これにより、男子ジュニア世界選手権への出場権を獲得しています。大杉さんは2019年の在学時にも、U19男子 第8回ユース世界選手権のアナリストを務めています。それに引き続き、U21のアナリストに選出されることは素晴らしい快挙だといえます。

試合映像はこちら

<https://www.youtube.com/watch?v=nrKh-I8D6VQ>

関連記事はこちら

ハンドボール男子日本代表U19チームの
アナリストに選出されました!/大杉憲由さんhttps://www.daido-news.jp/daido_news/student/u19.html

大同大学奨励賞が授与されました



▲授与式の様子

7月28日(木)、ゴビールにて奨励賞授与式が行われました。奨励賞は研究活動において、特に顕著な業績をおさめた人が対象となります。今回は、情報学部 総合情報学科 スポーツ情報コース 4年 篠崎賢大さん、工学部 機械システム工学科 3年 白山太一さんに奨励賞が授与されました。篠崎さんは、5月にブラジルで開催されたデフリンピックに日本代表として出場したことにより、選出されました。白山さんは、ロボカップジュニア ジャパンオープン2022「World League サッカー Light Weight」でチームメンターとして全国大会優勝。ロボカップの世界大会「Robo Cup BANGKOK 2022」で日本代表チームのメンターとして出場したことで今回の受賞に至りました。

関連記事はこちら

第24回夏季デフリンピックブラジル大会に出場します
/バレーボール部 篠崎賢大さんhttps://www.daido-news.jp/du_news/student/1180.html松嶋徹さん/男子ハンドボール部
(2021年度卒業生 総合情報学科 経営情報専攻)

ハンドボールチーム 「富山ドリームス」新規加入しました

8月9日(火)、富山県で活動する社会人ハンドボールチーム「富山ドリームス」に、男子ハンドボール部卒業生の情報学部 総合情報学科 経営情報専攻(現:経営情報コース)2021年度卒業生 松嶋徹さんが加入することが発表されました。松嶋さんは在学時には男子ハンドボール部の主将を務め、攻守に渡りチームを支えた選手です。

富山ドリームスは日本ハンドボールリーグへの加入を目指して発足したチームで、既に松嶋さんの他にも、情報学部 総合情報学科 経営情報専攻(現:経営情報コース)2021年度卒業生 赤井翔馬さん、工学部 機械工学科 2021年度卒業生 小野寺遥輝さんが加入しております。松嶋さん、富山ドリームスの今後のさらなる活躍に期待が高まります。

富山ドリームスのHP記事はこちら

<https://toyama-dreams.com/> 新規加入選手のお知らせ/

指導する中学生が市民スポーツ祭で優勝しました

8月7日(日)、名古屋市で開催された中部電力パワーグリッド市民スポーツ祭 中学生ハンドボール競技の部において、事務職員の八田忠さん(入試・広報室)が監督を務めるクラブチーム「大同ハンドボールアカデミー」が優勝しました。この大会は、名古屋市の中学生が対象となっており、大同ハンドボールアカデミーは1~2年生チームでエントリー。3年生は出場メンバーのサポートに回り先輩たちをサポートしました。

選手たちは積極的なディフェンスやメンバーの強みを活かしたオフェンスを武器にトーナメントを勝ち上がると、決勝戦では気持ちのこもった最高のゲームをして、見事初優勝を飾りました。出場メンバーの半数以上が1年生という構成の中で、チーム初タイトルとなる優勝を成し遂げたことは快挙であり、チームが一丸となって戦った証であると言えます。

大同ハンドボールアカデミーは、小学生チーム「大同キッズ」の卒部生を中心に、初心者や他チーム出身の選手も分け隔てなく受け入れながら活動しています。今後の活躍にぜひご期待ください。



▲見事優勝を果たした大同ハンドボールアカデミーのみなさん

大同キッズ・大同ハンドボールアカデミーのHPはこちら

<https://www.daidokids-academy.com/>

男子ハンドボール部

西日本インカレで準優勝しました

8月10日(水)～14日(日)、山口県で開催された第61回西日本学生選手権大会において、男子ハンドボール部が準優勝を飾りました。

男子ハンドボール部は、予選リーグを3戦3勝で快勝し、1位通過で決勝トーナメントへと駒を進めます。続く決勝トーナメントではその勢いそのまま、準決勝で強豪・大阪体育大学を破り、悲願の初優勝に王手をかけます。決勝戦では同じ東海リーグの名城大学に敗れ、惜しくも準優勝となりましたが、強豪校を破って、2018年度以来の決勝進出を果たすことができました。

個人賞では、優秀選手に情報学部 総合情報学科 スポーツ情報コース 4年 浜田弘哉さん、3年 村藤空吾さん、特別賞に情報学部 総合情報学科 スポーツ情報コース 3年 玉井康仁さんが選出されています。

この西日本インカレでの選手の皆さんの健闘を称えとともに、今後控える秋季リーグ戦、全日本インカレでの活躍に一層の期待が高まります。男子ハンドボール部への応援をよろしく願っています。



▲準優勝を果たした男子ハンドボール部のみなさん

いちご一会とちぎ国体記念 中学生ハンドボール大会で3位入賞

8月15日(月)、16日(火)に栃木県で開催された「いちご一会とちぎ国体記念中学生ハンドボール大会(COCO-MAT杯)」に、事務職員の八田忠さん(入試・広報室)が監督を務める「大同ハンドボールアカデミー」が出場し、3位入賞しました。

この大会は、中学生クラブチームの全国大会に抽選漏れで出場できなかったチームを救済するために企画されたものです。代替試合とはいえ、出場チームには春の全国大会出場チームなど、全国から強豪チームが集まり、全国大会と遜色のないレベルの高い大会となりました。大同ハンドボールアカデミーは、何度リードされても最後まで諦めない粘り強いプレーを見せ、激戦を戦い抜きます。準決勝では優勝チームにあと一歩及ばずに僅差で敗れましたが、チーム最後の試合となる3位決定戦を勝利し、見事に3位入賞を勝ち取りました。個人賞においても、優秀選手が1人選出されています。創部3年目にして、全国レベルの舞台で入賞という快挙を成し遂げたことに、チームの選手・保護者・スタッフ一同、心から喜びを分かち合いました。また、チーム一丸となってひたむきに戦う姿勢は、観客や対戦チームからも応援されるほどで、非常に高く評価されました。

監督の八田さんは「創部1期生の最後の舞台に、素晴らしい結果を残すことができ嬉しい。選手たちが試合を通じて人間的に成長していく姿に感動を覚えた。今後もこの3年間で得た財産を引き継ぎながら、より良いチームとなるように活動していきたい。」とコメントしました。大同ハンドボールアカデミーは、地域の子もたちがハンドボールを通じて成長できるよう、今後も活動を続けていきます。

大同キッズ・大同ハンドボールアカデミーのHPはこちら

<https://www.daidokids-academy.com/>



▲大会終了後の集合写真

発電機等をご寄贈頂きました

8月26日(金)株式会社メート・システムワーク様及び名古屋銀行様よりカセットガスインバータ発電機等を、29日(月)丸岩推工株式会社様及び名古屋銀行様よりローテーティングレーザーをご寄贈頂き、贈呈式を行いました。頂きましたカセットガスインバータ発電機等は、万が一の災害時に、ローテーティングレーザーは土木・環境専攻の教育に役立てていきます。寄贈ありがとうございます。

【寄贈品】

株式会社メート・システムワーク様及び名古屋銀行様より	
カセットガスインバータ発電機	1台
カセットガスマイボンベ	3台
丸岩推工株式会社様及び名古屋銀行様より	
ローテーティングレーザー	1台



▲贈呈式の様子

大同大学と南区役所との包括連携協定 に基づく事業「中高生ものづくり体験 with大同大学」を開催しました

大同大学と南区役所との包括連携協定に基づく事業として、8月27日(土)に本学にて、南区に在学の中学生及び高校生を対象とした「ものづくり体験」を開催しました。

体験内容は、①ミニチュア模型「小さな生活の風景」をつくってみよう、②住まいの嫌なにおいの消し方・素敵なかおりのつくり方、③やってみよう! 動画制作、④作ってみよう! 3Dプリンタやレーザー加工機で何ができる? の4つのコースに分かれ実施しました。

参加者からは、「模型を作ることができて楽しかったです。建築に興味がありました。」「おいの作り方や、いやなおいの消し方がわかって、いい経験になりました。」「自分で撮った動画を編集する作業がすごく楽しかった。」「新しいことがたくさん学べて、デザインするのがとても楽しかった。」などの声が寄せられました。



▲オリジナルグッズのデザイン制作の様子



▲フレグランスソルト作りの様子



▲ミニチュア模型の制作の様子



▲動画編集の様子

和太鼓同好会「咲楽」

大学太鼓フェスティバルで演奏しました!



8月26日(金)、東京都江戸川区総合文化センターで行われた「第7回大学太鼓フェスティバル」に、和太鼓同好会「咲楽」が出演しました。和太鼓同好会「咲楽」は昨年7月から活動を始め、創設2年

目となる今年度は新入生を7名迎え総勢10名で活動しています。

今回演奏した曲は、部長の工学部 機械システム工学科 3年 山崎竜也さん自らが作曲した「夏彩(なついろ)」で、創設当時の夏の風景をイメージした曲です。全国から集まった12団体の学生とレクリエーションや演奏披露を通して交流しました。

山崎さんは「同世代の学生と交流できていい刺激を受けました。今年の夏は柴田商店街の夏祭りや他大学の大学祭にも招待され、たくさん演奏の機会をもらえました。これからも地域密着で活動の場を広げていきたいです。」と語っていました。

(公財)日本太鼓財団 HPはこちら

<https://www.nippon-taiko.or.jp/college2022/>



星野勇次さん(2020年度卒業生 機械工学科)、
川村優稀さん(2021年度卒業生 機械工学科)

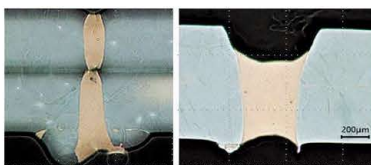
レーザ加工学会誌に論文掲載されました

工学部 機械工学科 田中研究室では公益財団法人 日比科学技術財団の研究開発助成を受け、2020年度よりテーマ「レーザ加工を利用した軟磁性鋼板の部分非磁性化に関する研究」を実施してきました。工学部 機械工学科 田中研究室 2020年度卒業生 星野勇次さんの卒業研究を受け継ぎ、2021年度卒業生 川村優稀さんが実験を行い、同学部同学科 田中浩司教授がまとめた学術論文がレーザ加工学会誌に掲載されました。

本研究では電磁鋼板を対象として、レーザ加工を駆使して幅1mm以下の狭い部分だけを非磁性、つまり磁束が流れない性質に変えることを試みました。非磁性材料として銅または銅-ケイ素合金を選び、レーザ切断した電磁鋼板のすき間に、以下の写真のように溶融させて浸入させました。また従来の近赤外線レーザよりも、青色レーザの方が、電磁鋼板の溶け込みが少なくなることを示しました(鉄は強磁性体なので非磁性の銅に入り込むと良くない)。

改質した電磁鋼板は未処理のものに比べ、流れる磁束密度が64%減となりました。これは空気なみの低い透磁率に相当します。レーザでは正確な位置の自由に加工ができるので、電磁鋼板からの漏れ磁束をピンポイントで防ぐことができ、永久磁石を搭載するモータの効率化に役立つと期待されています。

また、これは日比科学技術財団の2020年度 研究報告書にも掲載されています。



レーザ加工を利用した軟磁性鋼板の
部分非磁性化に関する基礎研究はこちら

http://www.hibizaidan.jp/asset/pdf/report/report_r02_tanaka.pdf



2022年度前期学位記授与式を挙行了しました

9月28日(水)、滝春キャンパスA棟14階交流室にて2022年度前期学位記授与式を挙行了しました。神保学長から卒業生一人ひとりに学位記が授与されました。



卒業生 内訳	工学部		情報学部	
	機械工学科	1名	情報システム学科	1名
	機械システム工学科	1名	情報デザイン学科	6名
	電気電子工学科	1名	総合情報学科	1名
	建築学科	3名		

ハンドボール部

東海学生ハンドボール秋季リーグ戦

9月3日(土)~10月2日(日)で開催された東海学生ハンドボール秋季リーグ戦において、男子が2位、女子が3位となりました。男子は8勝1敗で、勝ち点では優勝した中京大学と同率でしたが、直接対戦結果により惜しくも2位となりました。女子は4勝2敗で3位となり、この結果により全日本学生選手権への出場権を獲得しました。表彰では、男子から工学部 電気電子工学科 4年 阿久津拓さん、情報学部 総合情報学科 スポーツ情報コース 3年 玉井康仁さん、女子では情報学部 総合情報学科 スポーツ情報コース 2年 檜垣留花さんが優秀選手に選ばれました。



▲男子ハンドボール部のみなさん

男女ハンドボール部は、その後11月3日(木・祝)に地元愛知県で開催された全日本学生選手権に出場しました。

大同大学大学院奨励賞が授与されました

5月に開催された日本鑄造工学会が主催する第179回全国講演大会・学生講演において、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 前田研究室 2年 西原大貴さんが研究発表を行い、特に優秀な講演を行った学生として「学生優秀講演賞」を受賞しました。



▲右から2番目が西原さん

このことは、大同大学大学院においても、顕著な業績であると認められたため、大同大学大学院奨励賞が学長より授与されました。

ミラノ工科大学(イタリア)から留学生を迎えました

大同大学とミラノ工科大学(イタリア)との包括協定に基づく交換留学により、ミラノ工科大学から大学院生のアヴェリノ・エドアルドさんとスカグリア・ダヴィデさんが、9月から半年間、本学の大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻に留学生として在籍します。10月7日(金)に武藤理事長や神保学長などと顔合わせを行い、ミラノ工科大学の様子や日本の生活などについて懇談を行いました。留学生は2023年3月まで在籍し、大学院の授業やインターンシップで建築設計などを学ぶ予定です。



▲左から3番目がスカグリア・ダヴィデさん、4番目がアヴェリノ・エドアルドさん



▲イタリアのミラノの写真や地図を見ながら懇談を行っている様子

学生 デザイン 作品集



「就職活動応援ポスター」優秀作品/松原知里さん



「就職活動応援ポスター」優秀作品/嶋田菜帆さん

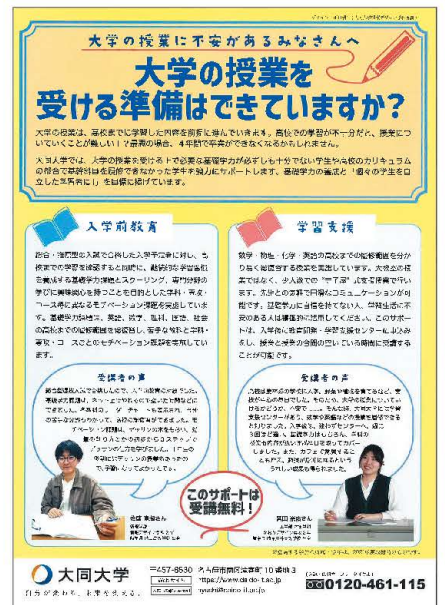
学生たちが、キャリア支援室や入試・広報室で発行する冊子の表紙やチラシ、ポスターをデザイン。それぞれの受け取り手や発行する目的などをよく考え制作しました。



「ものづくり体験講座」の案内チラシ/吉村陽さん



2022年度「教育懇談会」の案内パンフレット表紙/保田充輝さん



教育開発・学習支援センターチラシ/川口莉生さん



本学の就職活動応援チラシ/秋田詩織さん



本学の就職活動応援チラシ/秋田詩織さん



大同女子冊子「大同大学がわかる!」/嶋田菜帆さん

卒業生インタビュー



大同特殊鋼株式会社

山腰 浩平

2018年3月 工学部機械工学科卒業

2020年3月 大学院 工学研究科修士課程
機械工学専攻 修了

2022年12月現在

大同特殊鋼株式会社
入社3年目

企業 DATA

大同特殊鋼株式会社

〒461-8581
名古屋市東区東桜一丁目
1番10号
(アーバンネット名古屋ビル)



創 業 1916年(大正5年)8月19日
設 立 1950年(昭和25年)2月1日
代 表 者 代表取締役社長 石黒 武
資 本 金 371億7,246万4,289円
従業員数 12,605名(連結) 3,332名(単独)
事業内容 特殊鋼鋼材、機能材料・磁性材料、
自動車部品・産業機械部品、
エンジニアリング、流通・サービス

—— 現在勤務している企業を紹介してください。

ひとことで言えば鉄を作っている企業です。技術員という立場で各学科・専攻の学びを支援してくれる方が大同大学に来てくれたり、大学との交流が深い企業です。

—— 現在従事している仕事内容を教えてください。

「技術開発研究所 計測システム研究室」に所属し、社内のDXを推進して生産性を改善するのがミッションです。大学のすぐ近くにある星崎工場で勤務しているので、よく大学に顔を出していますよ。

—— 現在のお仕事におけるやりがいを教えてください。

現在取り組んでいるのは「検査の自動化」です。自分が開発した技術が導入されて現場の人から感謝されればやりがいを実感できると思います。

機械工学科卒ですが、電気や情報の勉強をしたり、資格を取ったりと知的好奇心を常にくすぐられています。

「今までできなかったことを技術でできるようにする」ことに取り組む仕事です。そのような野心とか挑戦心を感じられるのは、大きなやりがいになっていますね。上司や同僚もそんな気持ちの人が多く、すごく刺激になっています。

開発職は「工場生産という現場」の将来を作る仕事です。「現場のリーダーを育てる」という大学の方針に合致していると感じています。

—— その企業に就職したきっかけ、経緯を教えてください。

大学院で材料の研究をしていたため、材料系の企業への就職を考えていました。大学の推薦枠を獲得できたため、大同特殊鋼に絞りましたが、必ず合格できるわけではないので、頑張りましたね。

—— 大学での学びはどのように生きていますか？

研究室に所属し、原因を追究する機会が増え、考える癖が身に付きました。学び続ける姿勢やバイタリティが培われ、今の仕事に役立っていると思います。3年次までの授業は、当時は何の役に立つかわからず、苦勞した科目も多くありましたが、今になって役に立っていると実感しています。

—— これからの目標を教えてください。

自分の開発したシステムを現場に導入することです。今の仕事は面白いと感じており、深堀していきたいと思っています。今までできなかったことを実現させたいです。

—— 在学生に一言お願いします。

授業中に「何の役に立つだろう?」と思うこともあると思いますが、仕事で役立っていることを実感しています。あの時真剣に勉強して良かったと振り返ることも多くあります。今はしんどくても、将来きっと役に立つことが多いということを強く伝えたいと思います。在学中に勉強の楽しさに気づくことができれば、きっと社会に出てもその楽しさは続いていくことでしょう。

「DAIDO CAMPUS」の表紙を 情報デザイン学科 3年 秋田詩織さんがデザインしました

「変化・成長」をテーマに表紙のデザインを作成しました。下にあるパズルのピースは今までの人生で得られた経験を表しています。芽が生えているピースと、生えていない白のピースがありますが、前者はその経験の中で人生に影響を与えた経験、後者は大きな影響はなくてもその人を構成している経験として表現しました。左上の部分のパズルの縁にせず、空間を作ることで「これから先も生きている限り経験(ピース)は増えていく」という意味を込めました。複数のテーマから考えるのが難しかったですが、その分いろいろな捉え方でデザインを考えられて楽しかったです。今回、学生の内に得られた貴重な経験を今後活かしていきたいです。

